

# 209

2023. 9. 17

# 長崎郵趣

ウクライナより愛を込めて2  
和田進



ロシアから攻撃を受けたキーウ（キエフ）近郊のボロジャンカという街の瓦礫に、正体不明のストリートアーティストとして有名なバンクシーが描いた、柔道着姿のプーチン大統領をウクライナの子供が投げ飛ばす絵

# ウクライナより愛をこめて2 ～ロシアによる侵攻後にウクライナが発行した「愛国切手」たち～

和田 進

(長崎郵趣207号からの続き)

右上は、勲章まで授与された地雷探知犬「パトロン」を称え発行された小型シートである。ウクライナ侵攻におけるロシアの象徴「Z」の文字をあしらった不発弾に放尿する左上の切手や、ロシア人形マトリョーシカを睨む中央の切手が話題となったほか、最下段には実際の写真も見える。令和4(2022)年9月1日発行(著作権の問題で発行遅延)。

右中段は独立記念日を祝う切手で、題は「free, unbreakable, invincible」。語感を損なわないよう敢えて意識すると、「自由、不滅、無敵」くらいの意味となろう。ウクライナ郵政の準備が間に合わず、百万部の限定発売となった。令和4(2022)年8月24日発行。

### 【インタビュー③】

当方：ロシアの侵攻で受けた、一番大きな影響は。

先方：やはり何と云っても、私の3人の子供たちから「自由」と「将来」が奪われたことですね。私は何が あっても耐え抜こうと心に決めています。妻や子供たちは必ずしもそうではなく、これからも現状に 耐えていけるのか分からないため、その点だけが不安の種です。

右下は、「ロシアの戦車を牽引するウクライナ農夫のトラクター図案」が人気投票で切手に採用されることとなった際、次点で落選した「プーチン大統領の後ろ姿」をカシエに描いた官製封筒である。

ウクライナ軍人の腕のほか、下部にウクライナ語で「地獄へようこそ」と書かれ強烈だ。令和4(2022)年9月20日発行。



次ページ左上はウクライナの軍人を称える寄付金付き切手で、「ウクライナ軍人に栄光あれ」と題された小型シート。

男性女性両方の兵士が描かれており、性別に関係なく国防の任に当たっていることが分かる図案となっている。令和4(2022)年10月14日発行。



【インタビュー④-1】

当方：ロシアはウクライナを「兄弟国」等と呼んでいるが、あなたにもロシア在住の兄弟や親族がいるのか。

先方：その質問には、ファミリーヒストリーを話しつつ答えましょう。1952年に私の母であるイーラの父、つまり私の祖父ミハイロが、ウクライナ蜂起軍（筆者註：当初はナチスの、また後にはソ連の圧政に対し、レジスタンス活動を展開したウクライナの武装パルチザン組織）の一員としてロシア軍に抵抗したことを理由に、母の家族は全員がシベリアへ強制追放されることとなりました。シベリア送りになるまさにその日、子供だった母は通学先の学校にいましたが、先生の一人から逃げるよう密かに忠告されたため難を逃れられ、母の叔父ミコラに引き取られました。つまり母は家族の中でただ一人、ウクライナに取り残されるという運命を歩むことになったのです。その後、母の両親は流刑先のシベリア地方イルクーツク州に居を構え、そこではヴォロディミールと、祖父と同名のミハイロという、母にとっての弟が2人生まれました。

右上は、切手デザイン案の人気投票で一位に選ばれた、「平和こそ人類にとって最大の価値」と題するイラストをカシエにした官製封筒である。事情により未だ切手化はされていないと聞くが、一足先にこのような形でお目見えすることになった。尚、ヒマワリはウクライナを象徴する花である。令和4（2022）年10月2



6日発行。



上は、ロシア本土とクリミア半島を唯一繋ぐクリミア大橋が崩壊したことを祝う切手である。ロシアは「ウクライナ情報機関のテロ行為」、ウクライナ国防省情報総局は「ウクライナを犯罪者に仕立てるためのロシアによる『自作自演』と主張しているが、崩壊する橋の先端で映画『タイタニック』の有名な劇中ポーズをとる男女の姿が描かれる等、挑発的である。令和4（2022）年11月4日発行。

次ページ左上は、ウクライナ軍の武器を示す小型シートで、「勝利へ導く兵器たち」とでもいべき題が付されたものである。有名どころとしては、最上段右に描かれたトラックに積まれているように見える武器が、ロシアの巡洋艦モスクワを撃沈したウクライナ製地对艦ミサイル「ネプチューン」であり、また中段右切手に見える兵士が肩に担いでいる武器が、アメリカ製対戦車ミサイル「ジャベリン」である。令和



4 (2022)年12月6日発行。

右上は、ロシアが「併合」していたウクライナ東部のヘルソン州奪還記念切手で、ヘルソン名産であるスイカが描かれているが、よく見るとスイカの種は爆弾になっている。

同州はロシアの攻撃を受け陥落し、「住民投票」を経て「独立国家」となった直後にロシアが「併合」していた。令和4(2022)年12月9日発行。

#### 【インタビュー④-2】

それから20年以上経った1974年、母の家族はようやくウクライナへの帰還が許されましたが、イルクーツク生まれの叔父ヴォロディミールはロシアに残り、共産党員となって大手貿易会社に勤務した後、2005年に亡くなりました。彼の妻は、今も子供とロシアのイルクーツクやクラスノヤルスクで生活しているようですが、複雑な関係性であることも影響してか、手紙や電話を含め親族間の交流は一切ありません。

#### 【インタビュー⑤】

当方：ロシアの侵攻による生活への直接的な影響は。

先方：今は侵攻前と同じ金額の賃金を得られていますが、20%ほどのインフレが発生しており物価が上昇を続けているため、実際には日に日に生活が困窮する一方ですね。

そこで、その分の不足を補填すべく、切手収集家へ向けてウクライナの切手やカバー類を販



売しているわけです。あなたのような、素晴らしい購入希望者がさらに現れることを願うばかりですね。ちなみに、カバー等の販売で得られた収入の幾らかは、前線で戦うウクライナ兵に対して支援物資を送る民間団体に寄付する等、有効に役立っています。

下「勝利の新年」と題されたこの切手は、カシェ図案と大きく異なっており、切手本体には家の床に座り込む女性と、戦地で銃を片手に座る兵士が描かれ、別々の場所で互いを思い合っている様子である。一方のカシェには、夫婦が肩を組み窓越しに年越しの花火を見ている幸せな姿が描かれており、何とも涙を誘う対比である。令和4(2022)年12月19日発行。



次ページ上は、夜でも街の復旧のために作業を行う人々を描いた「光の戦士たち」という題の小型シートである。面白いのは、ハート模様と電球を描く特印のインクが白色である点で、



シート地の色との兼ね合いから敢えて選ばれたと思われるが、インクの定着が弱いようでカバー側に掛かっている部分が読み取れず残念である。令和5（2023）年2月15日発行。

### 【インタビュー⑥】

当方：最後に、ロシアへの思いがあれば。

先方：1936年に生まれ2020年に亡くなった父は、8人兄弟でした。第二次世界大戦の時には、父の家族はナチスドイツの占領地だった西ウクライナの村に住んでいましたが、父はドイツ軍人から、当然ながらドイツ製だったのですが生まれて初めてのチョコレートをもらい、その美味しさに感動したことを鮮明に覚えているとよく話していました。

しかし一方で1944年に村へやって来たロシア軍は、「集団農場」を組織し人々から生活の糧だった牛や小麦類を全て取り上げてしまいました。そんな状況で、どうやって8人の子を育てるというのでしょうか。

父の話は身近に起きたほんの一例かもしれませんが、それでも苛烈な統治を展開したといわれるドイツでさえ、時に我々へ向けて優しさをみせてくれていたのに、我々を兄弟や同胞と呼ぶロシアが我々にこれまで行ってきた仕打ちを思い返した時、どうしたら彼らを受せるといえるのでしょうか。

表紙は、ロシアから攻撃を受けたキーウ（キエフ）近郊のボロジヤンカという街の瓦礫に、正体不明のストリートアーティストとして有名なバンクシーが描いた、柔道着姿のプーチン大統領をウクライナの子供が投げ飛ばす絵を、切手にしたものである。

プーチンは13歳から柔道を続ける有段者だが、今次侵攻を機に国際柔道連盟名誉会長等をはじめ一切の名誉職から解任された。令和5（2023）年2月24日発行

以上、ロシアによるウクライナ侵攻以後に発行されたウクライナの記念切手貼り実通カバーを新着分まで紹介してきたが、同国の状況をある程度は理解していただけたものと思う。余り意識されないが、ロシアというユーラシアの大国を東西に挟んで位置する日本とウクライナには、各々がロシアと戦火を交え領土紛争を繰り広げてきたという共通性があり、かの国の置かれた状況というものも決して他人事でないことが分かるだろう。

クリミア半島や東部地区を奪われたウクライナ国民の間からは、同じく戦争のどさくさに紛れて樺太や北方諸島を奪われた日本との連帯を示す声も上がり、実際にウクライナ最高議会は令和4年10月7日に「日本の北方領土に対する立場を支持する。国際社会は、北方領土が日本に帰属するという法的地位を定めるため、全ての可能な手段を講じるべきだ」とする「日本の北方領土に関する国際社会への呼びかけ」という決議を採択し、その中で国連やEU、NATO等の国際機関に対し、日本の領土回復に向け一貫した支援と行動を取るよう訴えた。

ロシアによる「特別軍事作戦」の開始から1年が過ぎてもなお、ウクライナ側のみならずロシア側にも多くの死傷者が出続けている今次侵攻であるが、これが一刻も早く終結することを祈りつつ筆を擱くこととしたい。（了）